

# 金融・経済 おもしろ豆知識

古今東西、昔から伝えられているおとぎ話から現代の映画やマンガまで、お金や経済にまつわる物語は数え切れないほどたくさんあります。今回は、私たちに借金や経済にまつわる知識や教訓を分かりやすく伝えてくれる物語の中から、戯曲を取り上げます。

## 第2回

# 船がすべて難破!? 投資のリスクとは？ 戯曲「ヴェニス商人」

今から400年以上前に書かれたシェイクスピアの戯曲「ヴェニスの商人」。中世イタリアを舞台に、当時の商慣習や、契約、さらにはリスクに対する考え方を教えてくれる喜劇の名作です。

若き貿易商アントニーニオは親友バッサニアの結婚資金を用立てるため、ユダヤ人の悪徳金貸しのシャイロックから、「返済期限に遅れたら、胸の肉1ポンドを差し出す」ことを条件に金を借ります。心配するバッサニアにアントニーニオは言います。「ほとくの投資は、なにもひとつの船にかかっているわけではない。取引先も一箇所だけではない。」(福田恒存訳)。つまり、「分散投資をしているから心配するな」というわけです。

しかし、あることが、アントニーニオの

すべての船が難破したという報せが届きます。すべての収入を失ったアントニーニオに代わって、バッサニアが「期限には遅れたが倍額を返す」と言ってもシャイロックは拒否し、契約書通りに肉1ポンドを要求するのです。

窮地に立ったアントニーニオですが、裁判官に化けたバッサニアの婚約者ポーシャの「契約書どおり肉は切り取ってよいが、血については契約書に書かれていない以上、一滴たりとも流してはいけない」という判決により難を逃れます。

このほかにさまざまなエピソードがドラマを盛り上げ、最後は船も戻ってきてハッピーエンドとなりますが、生き残るための知恵比べと言ってよい緊迫感溢れる物語でもあります。



「すべての船が難破する確率は低い。いずれかの船が借金を返せるくらいの財産は稼いでくるだろう」というアントニーニオの考え方が、「卵はひとつのカゴに盛るな」という格言があるとおり、昔から分散投資が「生きるための知恵」として知られていたことが分かります。ただ、アントニーニオには、すべての船が難破するというリスクへの準備に甘さがあったのも確かですね。その一方で、「返済期限に遅れたら、肉を切り取る」、こんな契約は現代ではあり得ませんが、ポーシャの契約の文章を逆手にとった切り返しで常識を勝ち取った気転は見事の一言です。

リスクへの対応の大切さが、骨身に沁みるお話ですね。